

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和4年度終了時点(令和5年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和2年4月以降、第3期中心市街地活性化基本計画に基づき、計画に位置づけた51事業（計画当初50事業、計画変更で1事業追加）を推進している。

認定計画における令和4年度終了時点の概況については、平日昼間の歩行者通行量は10,404人となり目標値（令和6年）14,800人及び基準値（平成30年）13,756人を大きく下回ったものの、前年比では622人の増加となった。要因としては新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い減少していた外出、仕事・旅行を目的とした来街者等の人流が徐々に回復してきたことが考えられる。休日の歩行者通行量についても、3年ぶりの開催となった帯広まちなか歩行者天国の影響等もあり前年度から増加した。前年度まで、中止ないし規模縮小を余儀なくされていた計画事業は、従来どおりに近いかたちで実施できた事業も多くあり、次年度以降の更なる賑わい回復が期待できるものであった。

まちなか居住者数については、2,794人（令和4年9月末）となり目標値（令和6年9月末）2,820人を下回り、前年比でも11人の減少となった。前年度は西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業によって整備された分譲マンション棟への入居者により居住人口に係る社会増が多かった一方、今年度は自然減を社会増がカバーできなかったことが理由としてあげられる。しかしながら、令和4年度中にJR帯広駅前のホテルがサービス付き高齢者向け住宅（以下「サ高住」）に業態転換したことから、今後更なる居住者数の増加が見込まれる。また、中心市街地における地価については評価地点による増減はあるものの、平均値としては若干の上昇となっている。

また、令和2年度より中心市街地活性化協議会と連携し、中心市街地における「意欲的なプレーヤー」を掘り起こすため創設した元気な中心市街地づくり促進事業では、令和4年度に1事業者を採択し、中心市街地にeスポーツを取り入れた「次世代型教育施設」がオープンした。本施設は「ゲームを入りに次世代教育を実現する」ことを目的としており、具体的には、eスポーツを通じた講義、学習塾、コミュニティスペース等のほか、若者たちにまちづくりについて主体的に考えていくきっかけの場としての役割も期待され、今後の賑わい創出や中心市街地の活性化に寄与していくことが期待される。本補助事業は令和5年度も引き続き実施することを決定している。

令和5年1月末をもって藤丸百貨店が閉店したことにより、中心市街地の商店街等だけではなく、地域経済全体への影響が懸念されるため、今後も、中心市街地活性化協議会や各関連団体との連携を図りながら、計画推進に向け、取り組んでまいりたい。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度9月末日)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	2,558人	2,625人	2,805人	2,794人		
人口増減数	—	67人	180人	△11		
自然増減数	—	△25人	△15人	△41人		
社会増減数	—	92人	195人	30人		
転入者数	—	259人	342人	393人		

(2) 地価

(単位：円/㎡)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
中心市街地 商業地域平均	67,933	67,766	68,366	69,833		
帯広5-1(公) (西2南9)	104,000	103,000	101,000	101,000		
帯広5-1(基) (西1南10)	104,000	104,000	103,000	103,000		
帯広5-2(公) (西3南7)	52,000	52,000	52,500	52,500		
帯広5-4(公) (西5南5)	39,600	39,600	41,700	45,000		
帯広5-7(公) (大通南10)	55,400	55,400	56,000	60,000		
帯広5-8(公) (西5南12)	52,600	52,600	56,000	57,500		

2. 令和4年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

認定計画の中間年度である令和4年度における主要事業は、新型コロナウイルスの感染が落ち着きを見せ、目標指数である「歩行者通行量(平日昼間9～17時)」は前年比増となり、前年度に目標値に迫る勢いを見せた「まちなか居住者数」はほぼ横ばいという結果となった。

帯広まちなかホコテンが再開されたことにより、「平日+休日」の歩行者通行量が大きく伸び、またまちなかへの転入者数のみ見ると393人(前年度342人)と計画期間中では最高の数値となっている。

このような数値の結果から、今後の認定計画期間においては、計画に位置付けた51事業が着実に推進されていくことを期待するものである。

しかし、中心市街地の中核商業施設である藤丸百貨店が本年1月末に閉店となったことは、市

内在住者や周辺町村住民にとって「街に足を運ぶ楽しみ」が大きく損なわれることになった。個店のみでは集客を維持することは難しく、エネルギー問題を背景に光熱費が上昇し続けていることも危機を助長している。

こうした状況への危機感から、中心市街地に位置する商店街では、新型コロナウイルスまん延以前に実施していた事業を再開しようと結束力が高まってきている。さらに郊外からまちなかに人を呼び込むしかけとして公共交通を活用した国のMaaS事業の取組みがすすめられているほか、「ほこみち」事業のまちなかでの実施に向けた研究が行われている。また、帯広商工会議所では商店街と協力して歩行者空間の事業実施を計画するなど、各事業者がそれぞれの力を発揮した動きも出てきている。

国内旅行者やインバウンドの回復の兆しも見えてきており、「人がくる」きっかけづくりをいかに組み立て、継続していくかが重要になってきている。残り2年となった認定計画の期間は、中心市街地を「帯広の顔」として維持していくための重要な期間であり、その取組みに新規参入者が参画するきっかけとして、帯広市の「元気な中心市街地づくり促進事業」がさらに活用されることを期待している。

意欲的なプレーヤーが委員を構成している当中心市街地活性化協議会としても、助言者のみならず実践者として、この危機に立ち向かい、ひいては認定計画の目標を達成すべく取組んでまいりたいと考えている。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
平日昼間を中心とした来街者を増やす	歩行者通行量 (平日昼間 9～17時)	13,756人 (H30)	14,800人 (R6)	10,404人 (R4)	C	—	①
	【参考指標】 中心市街地の 宿泊客延べ数	96.6万人泊 (H30)	100.5万人泊 (R6)	90.5万人泊 (R4)	C	—	①
	【参考指標】 歩行者通行量 (平日+休日)	55,773人 (H30)	58,700人 (R6)	34,107人 (R4)	C	—	①
まちなか居住者を増やす	まちなか 居住者数	2,666人 (H30.9末)	2,820人 (R6.9末)	2,794人 (R4.9末)	B	—	①

< 基準値からの改善状況 >

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者通行量（平日昼間9～17時）」については、前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響を受け、目標値を下回ったが、前年度からは増加している。今後は新型コロナウイルス感染症の影響からの回復を更に加速させ、にぎわいを創出していく必要がある。令和3年度に完了した主要事業の一つである「西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業」に関し、店舗棟や事務所棟への入居が増え、9割近くが契約済みである。19階建て分譲マンションはすでに完売していることから、中心市街地でのイベント等が再開することによって、歩行者通行量も更に増加することが期待できる。今後は、「起業家がつながる拠点運営事業」等によるビジネス利用客の取り込み、「元気な中心市街地づくり促進事業」による中心市街地における魅力的で革新的な事業の展開を増やしていくことにより、にぎわいの創出に伴う歩行者通行量の増加を図り、目標達成を目指していく。

「まちなか居住者数」については、本計画事業である「西3・10東地区優良建築物等整備事業」が新型コロナウイルス感染症の影響で事業の着手を見送っているものの、「西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業」が計画どおり完了し、本事業による19階建て分譲マンションは全戸完売しており、入居の進捗により効果も発現してきているほか、JR帯広駅前にできたサ高住への入居が進むことによって目標達成が見込まれる。

【参考指標】

「中心市街地の宿泊客延べ数」については、目標値を下回る結果となったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大による外出自粛要請やイベント中止の影響を受け減少していた観光客やビジネス客数等が増加したと考えられ、宿泊者数は回復傾向にある。

今後、国や市等の施策の効果や、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類へ引き下げられたことなどにより、宿泊客数の回復が予測され、目標達成が見込まれる。

【参考指標】

「歩行者通行量（平日＋休日）」については、「歩行者通行量（平日昼間9～17時）」と同様、新型コロナウイルス感染症の影響から回復の傾向がみられる。帯広まちなか歩行者天国事業等といった大人数が集まるイベントが数年ぶりに開催されたこと等が要因と考えられる。今後の展望については新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類へ引き下げられ、全国的に人の移動が活発になることが見込まれることから、イベント等による更なる休日のにぎわいの創出のほか、夜間の中心市街地への来訪者が増加することに期待したい。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

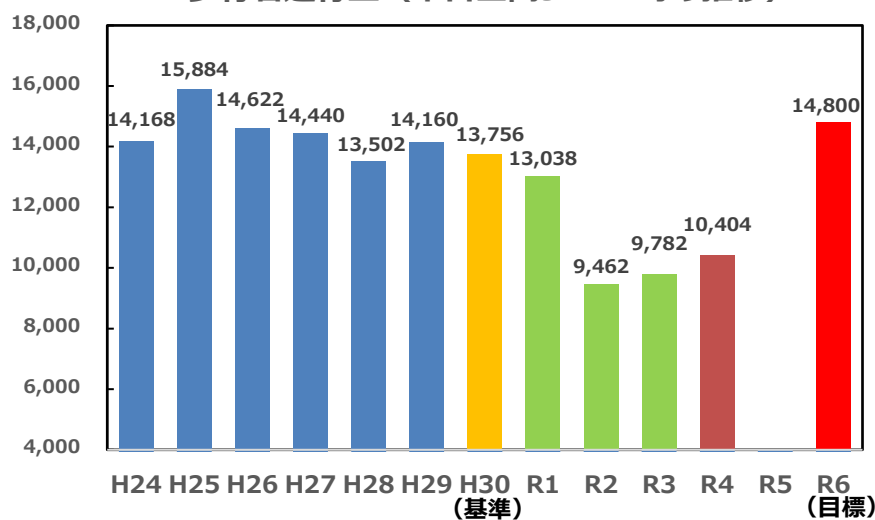
令和3年度フォローアップから、見通しの変化はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「歩行者通行量（平日昼間9～17時）」 ※目標設定の考え方は基本計画 P63、P65～70 参照

●調査結果と分析

歩行者通行量（平日昼間9～17時の推移）



年	(人)
H30	13,756 (基準年値)
R1	13,038
R2	9,462
R3	9,782
R4	10,404
R5	
R6	14,800 (目標値)

※調査方法：午前9時～午後5時までの歩行者通行量を測定

※調査月：各年6月最終週又は7月の第1週金曜日（休日に前年と同じイベントが行われる週に合わせて決定）

※調査主体：帯広商工会議所

※調査対象：中心市街地区域内計18か所における「中学生以上の歩行者」



(単位：人)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
①旧ヨーカドー東側	460	240	284	470		
②セントラル十勝ビル西側	460	324	528	464		
③藤丸南側	1,164	1026	910	892		
④マルキチパーキング北側	284	320	350	306		

⑤ポテチーノ 南側	414	264	328	326		
⑥旧 au ショッ プ北側	308	210	250	214		
⑦北洋ビル跡 東側	742	752	812	532		
⑧共同ビル西 側	700	480	382	598		
⑨アサノカメ ラ前	282	266	192	216		
⑩旧ベルナ前	238	278	204	238		
⑪だるま川上 薬局東側	446	346	312	352		
⑫北の屋台東 側	264	246	222	228		
⑬立花ビル前	494	416	414	248		
⑭多目的広場 西側	562	330	316	448		
⑮多目的広場 東側	648	402	456	442		
⑯ふじもり前	970	710	716	1,070		
⑰帯広駅東コ ンコース入口	3,254	2,018	2,366	2,186		
⑱ホテル日航 ノースランド 帯広西側	1,348	834	740	1,174		
合計	13,038	9,462	9,782	10,404		

〈分析内容〉

令和4年度については基準値を下回ったものの、前年度までの新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響から回復の傾向が見られた。前年度から増加している地点の理由として、新型コロナウイルス感染症の波が落ち着きを見せていたことを背景に通勤・通学を中心に人流が回復してきている様子が伺えるほか、JR 帯広駅付近のホテルでは朝方の時間の歩行者通行量が前年度より増加しており、出張等の市外からの人流も回復してきていると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果①. 西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業（アルファコート帯広西3・9地区開発株式会社）

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【済】
事業概要	大型商業施設が郊外に移転して以降空きビル状態が続き、中心市街地衰退の大きな要因の一つであった西3・9周辺地区を再整備し、事務所棟、19階建て分譲マンション棟、店舗棟などの建設により、都市機能の更新を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】760人 【最新値】680人</p> <p>本事業による居住施設の整備により歩行者通行量は264人、商業施設整備により496人、計760人の増加を見込んでいる。本事業は当初の計画どおり進捗し、令和2年4月に事務所棟・駐車場棟が完成、令和2年10月に分譲マンション棟が完成した。令和4年2月までに商業棟や自走式駐車場棟などの全ての工事が完了したことから、商業施設整備による歩行者量の増加として、計画策定時の試算通り、$2,080 \text{人} \times 15.1\% \times 2 \times 79\% = 496 \text{人}$を見込んでいる。また令和5年3月末における分譲マンションの成約割合は100%（令和5年3月末入居実績196人）であり、歩行者通行量としては$196 \text{人} \times 59.4\% \times 2 \times 79\% = 184 \text{人}$の増加と推定される。</p>
事業の今後について	商業棟については9割近くが契約済みであるが、新型コロナウイルス感染症等の影響により未入居のテナントが一部あるため、今後新たな商業施設が開業することにより、さらなる集客、にぎわいの創出が期待できる。

②. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】392人 【最新値】0人</p> <p>本事業による歩行者通行量は、居住施設の整備により20人、商業施設整備により155人、ホテルの整備により217人、計392人の増加を見込んでいる。令和3年に事業に着手する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、事業の着手を見送っている状況である。</p>

事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業着手を見送っている状況であるが、現状では事業内容の変更はなく、今後事業着手となることで、効果の発現が期待できる。
-----------	---

③. 移住促進事業（UIJターン促進事業）（帯広市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	首都圏での移住相談会の開催や、UIJ ターン希望者への地元企業見学ツアーの実施のほか、UIJ ターン希望者に対する転居費用の補助等により、移住促進を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】18人 【最新値】0人</p> <p>令和4年度の本事業による帯広市への移住者の数は、移住を具体的に検討している移住希望者を対象としたマッチングイベントの実施などにより40人であったが、中心市街地エリアにおける居住者はいなかったことから、歩行者通行量増加数は$0 \times 59.4\% \times 2 \times 79\% \div 0$人となり、事業目標値である18人の増加を下回った。</p>
事業の今後について	市が主体となり、首都圏での移住相談会を実施するほか、移住者に対する移住経費の補助等を行うことで、移住の促進を図るとともに、首都圏の大学生向けに地域企業の魅力を発信する取り組みを行っている。そうした取り組みにより、移住者の中心市街地への居住を促進し、歩行者通行量の増加につなげていく。

④. 起業家がつながる拠点運営事業（公益財団法人とかち財団）

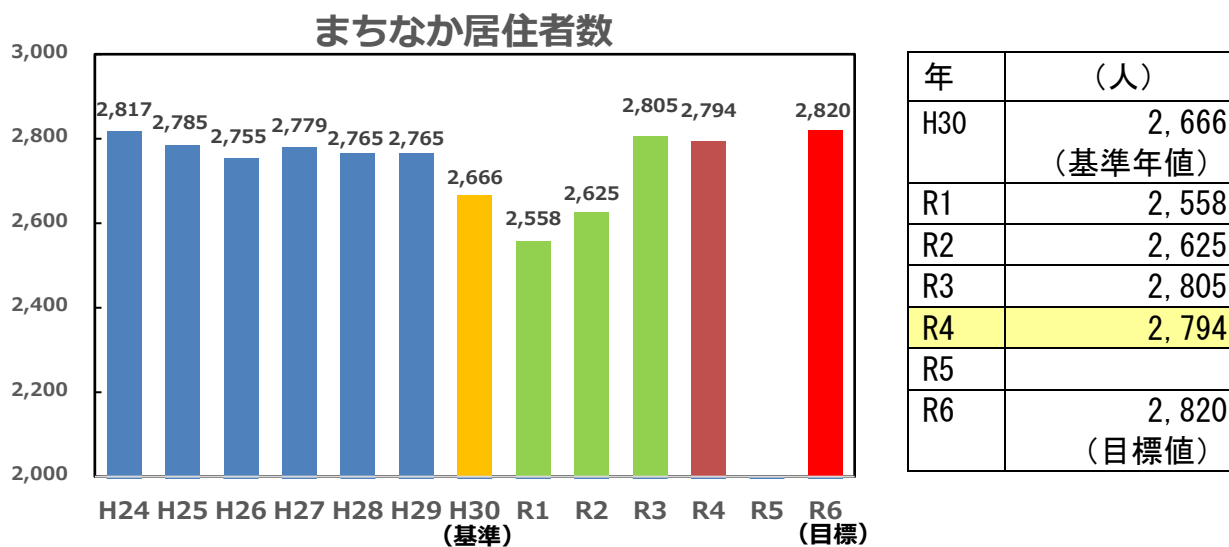
事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	「創業・起業、事業創発を目指す人材や支援者等が集い、交流する施設（とかちのやりたい実現カフェLAND）」を中心市街地で運営することで、情報交換や勉強会等で日常的なにぎわいを創出する事業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】51人 【最新値】13人</p> <p>令和4年度の実績は新型コロナウイルス感染症の影響により、域内外問わず人流が減少し、$11.5 \text{人/日} \times 2 \text{地点} \times 57\% = \text{約} 13 \text{人}$の増加に留まり、事業目標値である51人の増加を下回った。</p>
事業の今後について	前年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数は伸び悩んでいる。一方、民間事業者からの連携依頼等、地域から協力を求める声も多くあることから、引き続き事業の相談対応や情報提供などを行うほか、新しいチャレンジやアイデアが生まれる場を提供していくことで効果の発現を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和4年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値を下回る結果となった。今後は新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類へ引き下げられたことを一つの区切りとし、にぎわいを創出することを模索していくことのほか、事業者や市街在住者にとっても魅力のあるエリアを形成していく必要があり、計画事業を着実にすすめ、効果を発現させることにより目標達成を目指してまいりたい。

(2)「まちなか居住者数」※目標設定の考え方は基本計画 P63、P71～72 参照

●調査結果と分析



※調査方法：9月末の住民基本台帳より集計（※H24～H29は3月末）

※調査月：9月

※調査主体：帯広市

※調査対象：中心市街地区域

〈分析内容〉

令和3年度に事業が完了した「西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業」により建設された19階建て分譲マンションが完売し、入居が進んでいることが、基準値を上回った大きな要因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業（アルファコート帯広西3・9地区開発株式会社）

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【済】
事業概要	大型商業施設が郊外に移転して以降空きビル状態が続き、中心市街地衰退の大きな要因の一つであった西3・9周辺地区を再整備し、事務所棟、19階建て分譲マンション棟、店舗棟などの建設により、都市機能の更新を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】281人 【最新値】196人 本事業における居住施設の整備により281人の居住者の増加を見込んでいる。本事業は当初の計画どおり進捗し、令和2年4月に事務所棟・駐車場棟が完成、令和2年10月に分譲マンション棟が完成し、令和4年2月までに商業棟や自走式駐車場棟など全ての工事が完了した。令和5年3月末における分譲マンションの成約割合は100%（令和5年3月末入居実績196人）であり、順調に進捗している。
事業の今後について	商業棟については9割近くが契約済みであるが、新型コロナウイルス感染症等の影響により未入居のテナントが一部あるため、今後新たな商業施設が開業することにより、さらなる集客、にぎわいの創出が期待できる。

②. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】21人 【最新値】0人 本事業における居住施設の整備により21人の居住者の増加を見込んでいる。令和3年に事業に着手する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、事業の着手を見送っている状況である。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業着手を見送っている状況であるが、現状では事業内容の変更はなく、今後事業着手となることで、効果の発現が期待できる。

③. 移住促進事業（UIJターン促進事業）（帯広市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	首都圏での移住相談会の開催や、UIJ ターン希望者への地元企業見学ツアーの実施のほか、UIJ ターン希望者に対する転居費用の補助等により、移住促進を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】19人 【最新値】0人</p> <p>令和4年度の本事業による帯広市への移住者の数は、移住を具体的に検討している移住希望者を対象としたマッチングイベントの実施などにより40人であったが、中心市街地エリアにおける居住者はいなかったことから、事業目標値である19人の増加を下回った。</p>
事業の今後について	市が主体となり、首都圏での移住相談会を実施するほか、移住者に対する移住経費の補助等を行うことで、移住の促進を図るとともに、首都圏の大学生向けに地域企業の魅力を発信する取り組みを行っている。そうした取り組みにより、移住者の中心市街地への居住を促進していく。

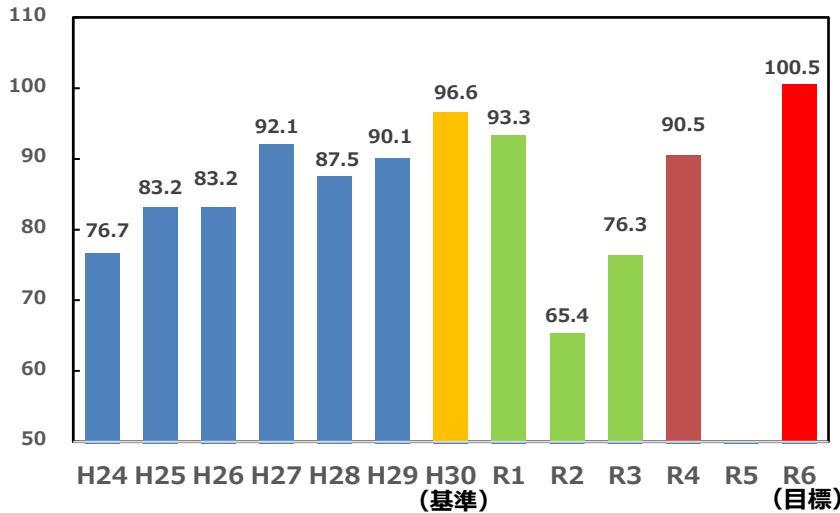
●目標達成の見通し及び今後の対策

令和4年度は、目標値を下回る結果となったものの、「西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業」の分譲マンション棟の建設が完了し、令和5年3月末時点の成約割合が100%であり、入居が進んでいるほか、令和4年にJR帯広駅前に開業したサ高住への入居が進むこと等により、計画終了時点における目標達成は可能だと考えられ、幅広い世代にとって魅力のある中心市街地を目指し、計画事業を着実にすすめ、効果を発現させることにより目標達成を目指してまいります。

【参考指標】「中心市街地の宿泊客延べ数」※目標設定の考え方は基本計画 P63、P73～74 参照

●調査結果と分析

中心市街地の宿泊客延べ数



年	(万人泊)
H30	96.6 (基準年値)
R1	93.3
R2	65.4
R3	73.3
R4	90.5
R5	
R6	100.5 (目標値)

※調査方法：北海道観光入込客数調査要領に基づき、帯広市が集計して算出

※調査月：当年度分を翌年4月～5月に集計

※調査主体：帯広市

※調査対象：中心市街地区域内に所在する宿泊施設の宿泊者

〈分析内容〉

令和4年度は、目標値を下回る結果となったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大による外出自粛要請やイベント中止の影響を受け減少していた観光客やビジネス客数等が増加したと考えられ、宿泊者数は回復傾向にある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業)(国土交通省)(令和3年度～令和5年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】3.9万人 【最新値】0人 本事業による宿泊施設の整備により宿泊客3.9万人泊の増加を見込んでいる。令和3年に事業に着手する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、事業の着手を見送っている状況である。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業着手を見送っている状況であるが、現状では事業内容の変更はなく、今後事業着手と

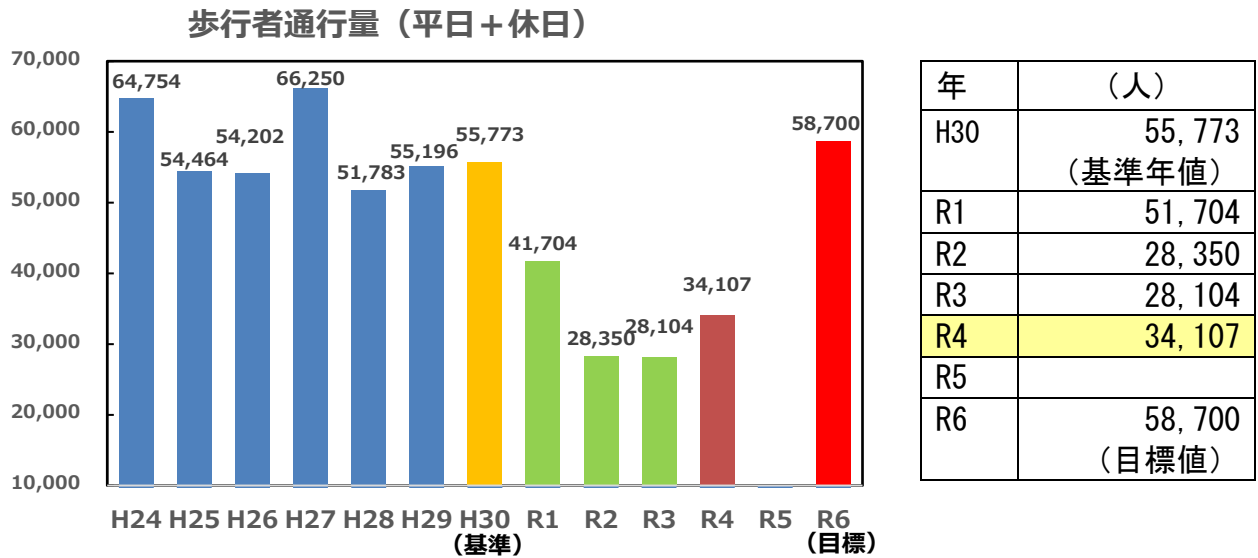
なることで、効果の発現が期待できる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症の影響により宿泊客数が減少していたが、国や市等の施策の効果や、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類へ引き下げられたことなどにより、宿泊客数の回復が予測され、目標達成が見込まれる。

【参考指標】「歩行者通行量（平日+休日）」※目標設定の考え方は基本計画 P63、P75～77 参照

●調査結果と分析

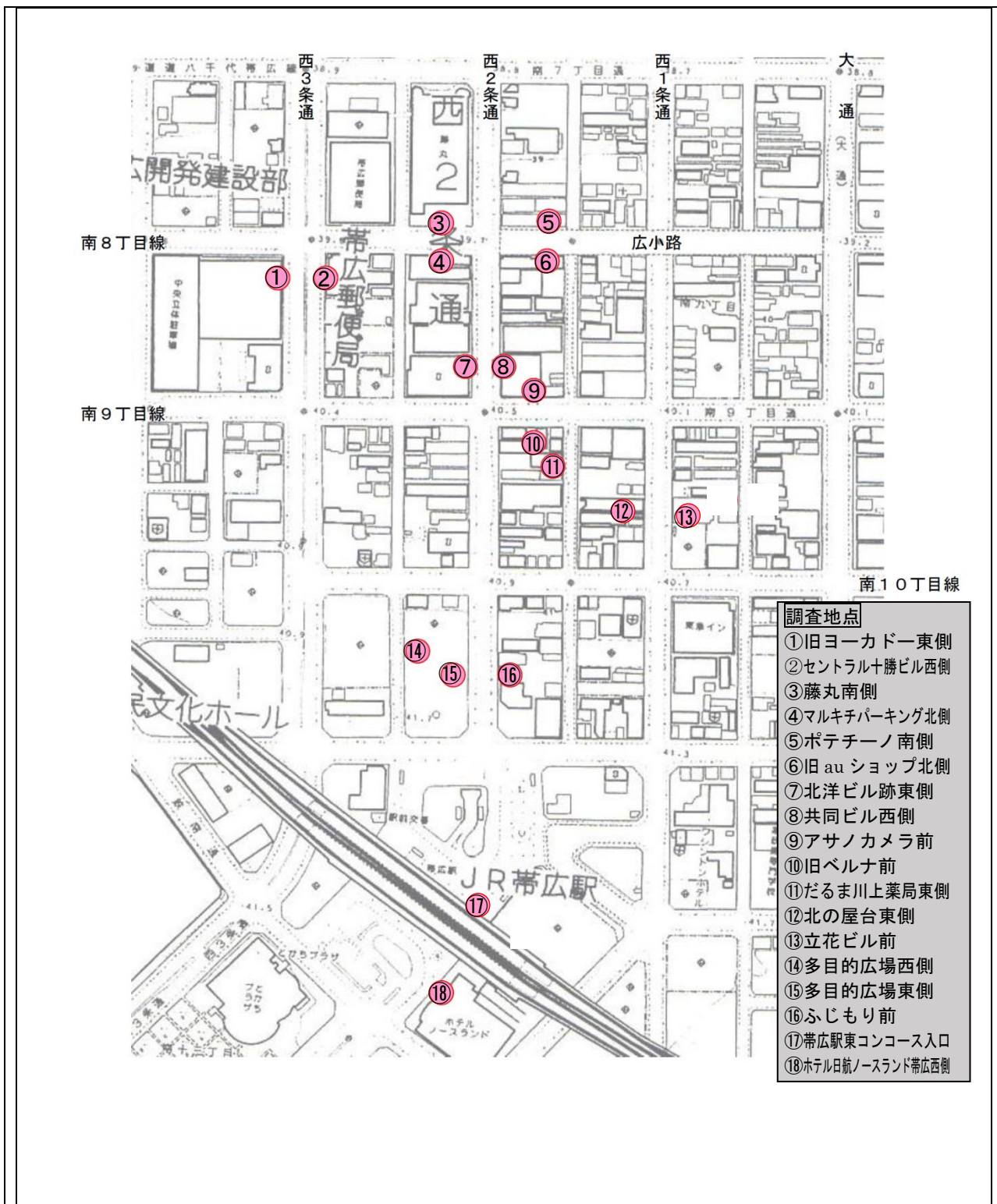


※調査方法：午前9時～午後8時までの歩行者通行量を測定

※調査月：各年6月最終週又は7月の第1週金曜日及び日曜日（休日に前年と同じイベントが行われる週に合わせて決定）

※調査主体：帯広商工会議所

※調査対象：中心市街地区域内計18か所における「中学生以上の歩行者」



(単位：人)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
①旧ヨーカドー東側	832	482	540	815		
②セントラル十勝ビル西側	992	684	807	836		

③藤丸南側	3,773	2,086	1,875	2,075		
④マルキチパ ーキング北側	1,458	898	800	711		
⑤ポテチーノ 南側	2,143	746	803	1,041		
⑥旧 au ショッ プ北側	1,810	716	632	1,003		
⑦北洋ビル跡 東側	4,670	2,434	2,374	2,022		
⑧共同ビル西 側	3,920	1,476	1,273	2,251		
⑨アサノカメ ラ前	1,877	1,088	939	1,192		
⑩旧ベルナ前	1,441	1,096	969	1,295		
⑪だるま川上 薬局東側	2,533	1,538	1,436	2,103		
⑫北の屋台東 側	2,041	1,626	1,356	1,823		
⑬立花ビル前	2,087	1,540	1,312	1,239		
⑭多目的広場 西側	2,106	984	1,098	1,326		
⑮多目的広場 東側	2,687	1,230	1,616	1,677		
⑯ふじもり前	4,265	2,332	2,774	3,364		
⑰帯広駅東コ ンコース入口	9,450	5,262	5,498	6,500		
⑱ホテル日航 ノースランド 帯広西側	3,619	2,132	2,002	2,834		
合計	51,704	28,350	28,104	34,107		

〈分析内容〉

令和4年度については基準値を下回ったものの、イベントの再開等の影響を受け、多くの地点で前年度を上回った。藤丸南側や広小路商店街周辺が増加している要因は、3年ぶりの開催となった帯広まちなか歩行者天国によるものと考えられる。また、昼間のイベントだけではなく夜間についても、屋台村「北の屋台」等の歩行者数が増加している。「西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業」の街区も、事務所棟にオフィスがある企業の従業員や分譲マンションの居住者のほか、商業施設を目的とした人流が増加したとみられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業（アルファコート帯広西3・9地区開発株式会社）

事業実施期間	平成29年度～令和3年度【済】
事業概要	大型商業施設が郊外に移転して以降空きビル状態が続き、中心市街地衰退の大きな要因の一つであった西3・9周辺地区を再整備し、事務所棟、19階建て分譲マンション棟、店舗棟などの建設により、都市機能の更新を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成29年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】1,924人 【最新値】1,722人</p> <p>本事業による居住施設の整備により歩行者通行量668人、商業施設整備により1,256人、計1,924人の増加を見込んでいる。本事業は当初の計画どおり進捗し、令和2年4月に事務所棟・駐車場棟が完成、令和2年10月に分譲マンション棟が完成した。令和4年2月までに商業棟や自走式駐車場棟などの全ての工事が完了しことから、商業施設整備による歩行者量の増加として、計画策定時の試算通り、$2,080 \text{人} \times 15.1\% \times 2 \times 2 = 1,256 \text{人}$を見込んでいる。令和5年3月末における分譲マンションの成約割合は100%（令和5年3月末入居実績196人）であり、歩行者通行量としては$196 \text{人} \times 59.4\% \times 2 \times 2 = 233 \text{人} \times 2 \text{（平日+休日）} = 466 \text{人}$の増加が推定される。</p>
事業の今後について	商業棟については9割近くが契約済みであるが、新型コロナウイルス感染症等の影響により未入居のテナントが一部あるため、今後新たな商業施設が開業することにより、さらなる集客、にぎわいの創出が期待できる。

②. 西3・10東地区優良建築物等整備事業（有限会社ホテル十勝屋）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	JR帯広駅からほど近く、オフィスビル・ホテル・映画館などの娯楽施設が集中する地区で宿泊施設・商業施設・居住施設等からなる複合施設を整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】655人 【最新値】0人</p> <p>本事業による居住施設の整備により歩行者通行量25人、商業施設整備により196人、ホテルの整備により434人、計655人の増加を見込んでいる。令和4年に事業に着手する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、現在、事業の着手を見送っている状況</p>

	である。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業着手を見送っている状況であるが、現状では事業内容の変更はなく、今後事業着手となることで、効果の発現が期待できる。

③. 移住促進事業（UIJターン促進事業）（帯広市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	首都圏での移住相談会の開催や、UIJ ターン希望者への地元企業見学ツアーの実施のほか、UIJ ターン希望者に対する転居費用の補助等により、移住促進を図る事業
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】23人 【最新値】0人 令和4年度の本事業による帯広市への移住者の数は、移住を具体的に検討している移住希望者を対象としたマッチングイベントの実施などにより40人であったが、中心市街地エリアにおける居住者はいなかったことから、歩行者通行量増加数は $0 \times 59.4\% \times 2 \div 0$ 人となり、事業目標値である23人の増加を下回った。
事業の今後について	市が主体となり、首都圏での移住相談会を実施するほか、移住者に対する移住経費の補助等を行うことで、移住の促進を図るとともに、首都圏の大学生向けに地域企業の魅力を発信する取り組みを行っている。そうした取り組みにより、移住者の中心市街地への居住を促進し、歩行者通行量の増加につなげていく。

④. 起業家がつながる拠点運営事業（公益財団法人とかち財団）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	「創業・起業、事業創発を目指す人材や支援者等が集い、交流する施設（とかちのやりたい実現カフェLAND）」を中心市街地で運営することで、情報交換や勉強会等で日常的なにぎわいを創出する事業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】90人 【最新値】23人 令和4年度の実績は新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント利用客が非常に少なく $11.5/\text{人}/\text{日} \times 2 \text{ 地点} = \text{約} 23 \text{ 人の増加}$ に留まり、事業目標値である90人の増加を下回った。
事業の今後について	前年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数は伸び悩んでいる。一方、民間事業者からの連携依頼等、地

	域から協力を求める声も多くあることから、引き続き事業の相談対応や情報提供などを行うほか、新しいチャレンジやアイデアが生まれる場を提供していくことで効果の発現を目指す。
--	---

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和4年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値を下回る結果となった。今後は新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類へ引き下げられたことを一つの区切りとし、にぎわいを創出することを模索していくことのほか、事業者や市街在住者にとっても魅力のあるエリアを形成していく必要があり、計画事業を着実にすすめ、効果を発現させることにより目標達成を目指してまいりたい。